



年頭のごあいさつ

夢 ふくらむ展 開

明けましておめでとうございます。みやぎ街道交流会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと思います。

私は、昨年の交流会ニュース年頭のごあいさつで「今年は岩沼での古代東山道に関する新発見でみやぎ街道交流会の10周年に華を添えることができるのではないか」と大きな夢を語りました。

岩沼市の玉崎地区は、延喜式にみられる「玉前駅(たまさきうまや)」や多賀城出土木簡に記された「玉前割(たまさきせき)」の有力な候補地で、江戸時代の奥州街道も通っており、古代の東山道がつくられ、駅家や関所が置かれていて当然と思われるような場所でした。私達は市史編纂事業の一環として7年前から玉崎地区の踏査を続け、昨年1月に狙いを付けた3地点の発掘調査を行いました。しかし、期待に反して古代に関する遺構や遺物は全く発見されず、来年の年頭ごあいさつではどんな言い訳をしようかなどと大言壮語したことを後悔しはじめたところででした。

ところが、11月になって思いがけない事態の進展。私たちが発掘した場所から1kmほど南東に位置する原遺跡の県営圃場整備事業に伴う発掘調査で、多量の須恵器・土師器とともに、大規模な柱穴を持つ掘立柱建物跡が発見され、東海地方で焼かれた陶製の円面硯(写真)も出土したのです。円面硯は役人が使ったとみられることから、発見された建物跡は役所に関わる建物であることは明らかで、玉前駅や玉前割の施設の一部である可能性が高いと考えられます。だとすれば、東山道もこの付近を通っていたはずであり、長年の懸案だった東山道、玉前駅、玉前割に関する重要な手掛かりが得られたといっても過言ではないでしょう。東山道の駅家や関所の遺構と確定できれば東北では初めてで、全国的にも貴重な発見となります。



から、発見された建物跡は役所に関わる建物であることは明らかで、玉前駅や玉前割の施設の一部である可能性が高いと考えられます。だとすれば、東山道もこの付近を通っていたはずであり、長年の懸案だった東山道、玉前駅、玉前割に関する重要な手掛かりが得られたといっても過言ではないでしょう。東山道の駅家や関所の遺構と確定できれば東北では初めてで、全国的にも貴重な発見となります。

このニュースは12月3日の河北新報や朝日新聞で大きく取り上げられ、私も嬉しくて早速12月10日の当交流会ミニ講座で皆さんに概要を紹介しました。昨年の年頭の夢が不渡りにならずに済んで良かったという思いと同時に、今後の遺跡の解明がとても楽しみで、また夢を大きくふくらませているところです。

平成29年 正月

会長 白鳥良一

※円面硯(えんめんけん):土製の硯で、丸い形をしているところから呼ばれています。これに脚もついています。現在の長方形の黒の石硯は、平安時代に作られ始めたものです。それ以前は、陶硯(とうけん)と呼ばれる焼きものの硯で、墨をする面が丸いのが一般的でした。(事務局記)

〔写真〕:初日の出(京野副会長撮影)

みやぎ街道交流会ニュース

題字:高倉 淳初代会長 揮毫

みやぎ
街道
交流会
ニュース
第35号

2017.1.30 発行

- ◆ 全国街道交流会全国大会は、平成16年11月の第3回「羽州街道・上山大会」以来の東北での開催となりました。この大会を契機に、「とうほく街道会議」や「みやぎ街道交流会」などの街道活動団体が東北各地に設立されました。
- ◆ 今回の福島大会は、現在、相馬～福島～米沢間で整備が進められている東北中央自動車道を「新たな街道」と捉えた交流連携軸とし、圏域の魅力と可能性を発信し、各地域の自然・歴史・文化・産業、更にこれらを結ぶ地域づくりと観光ブランドの構築に貢献することを目的としています。テーマは、「～街道復興～ 東北のまち、みち再生」で、これまでの大会成果を継承して、東北地域に即した更なる具体化と街道・道路による地方創生を目指しています。なお、本大会に先立ち、福島市(3回)、相馬市、米沢市、伊達市でプレ大会も開催しています。
- ◆ 今号では、11日に飯坂温泉「パルセいいざか」を会場とした【シンポジウム】と、12日の【エスカーション(探訪会)】の概要を報告します。なお、詳細は、報告書が出来たらホームページに掲載する予定です。

【11月11日：シンポジウム】

◆ 基調対談(パネルディスカッション)「平成の藩政改革」殿様たちの地方創生

- 江戸時代の街道整備や藩の経営について振り返り、新たな往来の可能性と将来像についてのヒントを探りました。
- 対談者は、徳川宗家18代当主徳川恒孝(つねなり)氏、庄内酒井家18代当主酒井忠久氏、福島板倉家20代当主板倉敏和氏、仙台伊達家18代当主伊達泰宗氏で、コーディネーターは小林香福島市長が務めました。
- 各殿様からは、徳川氏「街道を人・物・文化が行き交い、大きな役割を果たした。現在の社会の基礎は、江戸時代から続いていると思う」、酒井氏「藩校至道館の長所を伸ばす精神は、今も受け継がれている」、板倉氏「初代藩主の土地の人を大事にとの遺訓を受け、城下の整備等に力を入れ、借金の証文写しか残っていなかった」、伊達氏「礼節が日本の歴史をつくってきた。若者には礼節を重んじ、世界中で活躍してほしい」などのお話がありました。



◆ 第1分科会(提言)「街道・道路と地方創生」

- 観光分野を中心にそれぞれの専門分野からの活発な意見が交わされました。
- パネリストは、石田東生(はるお)筑波大学教授、立谷秀清相馬市長、松崎晃治小浜市長、後藤貞二観光庁観光地域振興課長、堀泰則飛騨・高山観光コンベンション協会会長。コーディネーターを須田寛日本商工会議所観光委員会共同委員長が務めました。
- (まとめ) ①造る・直す・使うは同じに重要。費用対効果は一面的な数字であり、本当にはほしいものへ国民からの声が必要である。②波及効果は、交流人口の拡大→地域経済の循環→地域社会の再活性化となるが、地域の努力が重要である。③新しい街づくりに観光を生かすために、道路ネットワークのシステム化と道路ネットワークに結ばれたきずが必要である。



◆ 第2分科会(連携)「交流・連携と地方創生」

- 現在建設中の東北中央道への期待や完成後の沿線地域の連携等について、活発な意見が交わされました。
- パネリストは、渡邊博美福島商工会議所会頭、吉野徹米沢商工会議所会頭、新妻良一相馬商工会議所前会頭、渋谷浩一桑折町商工会会長、高荒昌展福島県観光物産交流協会理事長、渡邊和裕福島市観光コンベンション協会会長、秋葉隆子米沢観光コンベンション協会副会長。ゲストに森山誠二国交省道路局環境安全課長。コーディネーターを田中孝治 NPO 法人地域づくりサポートネット副会長が務めました。
- (まとめ) ①道づくり・使い・守るの三位一体が重要。また道使い運動に向けていくべきである。②東北には交流を阻むものとして、距離・地形・制度・思い・理解の壁がある。ライシャワー博士の「山の向こうのもう一つの日本」にある、東北の損得ではない原日本の良さを忘れてはならない。③キーワードは、復興産業、地産地消(互産互消)、物流(無料高速道)、農業の6次産業化→全産業の6次産業化→新しい産業に魅力創生。④流れが出来るだけでなく、溜まりが必要である。



◆ 第3分科会(首長)「“住んでよし・訪れてよし”のみちづくり・まちづくり」

- 広域連携等の取り組み状況やこれから取り組むについて、活発な意見が交わされました。
- パネリストは、福島市長、米沢市長、桑折町長、伊達市副市長、福島県土木部長、中津川市長、上山市副市長、静岡市副市長、三島市地域活性化戦略監。ゲストに森昌文国交省技監。コーディネーターを藤本貴也 NPO 法人全国街道交流会議代表理事が務めました。
- (まとめ) ①東北中央道を如何に活用するか。地域連携から更に広域連携(仙台・会津・新潟)へ発展が重要である。②ネットワークの拠点として、道の駅もあり、駅間の連携も重要である。③テーマは、歴史、食など。街道観光もある。



(次頁続く)

Aコース「桑折宿と奥州・羽州街道追分、伊達氏のルーツを訪ねる」

- [桑折町]：「伊達朝宗墓所(伊達氏初代)」～「旧伊達郡役所」～「桑折御蔵」～「法円寺(芭蕉の田植塚)」～「無能寺(御蔭廼松(みかげのまつ))」～「奥州・羽州街道追分」～「半田銀山史跡公園」～「うぶかの郷」

案内：井沼千秋氏(桑折町まちづくり推進課)



Bコース「奥州街道福島城下・福島宿の歴史遺産を巡る」

- [福島市街地]：「御倉邸・福島河岸」～「福島城下江戸口跡」～「福島宿米沢口」～「福島市道路元標」～「福島城跡」・「板倉神社」

※板倉敏和板倉家 20 代当主の「ソバ振る舞い」あり

案内：柴田俊彰氏(福島市教育委員会文化課)



Cコース「旧米沢街道と東北中央道、400 年の道の歴史に触れる」

- [福島市]：「東北中央自動車道」工事現場見学～旧米沢街道「庭坂宿」・「笹木野宿」～市街地の「万世大路」

案内：福島河川国道事務所、吾妻地区郷土史談会、江代正一氏(万世大路研究者)



概 報

みやぎ街道交流会ミニ講演会

「アイヌ語地名と和語地名の境界を探る」

(平成 28 年 12 月 10 日／青葉区中央市民センター)

- ◆ 太宰幸子氏に「アイヌ語地名と和語地名の境界」のテーマで講演を頂きました。これまでずっと探し続けてきたテーマで、要害調査結果も振り返りながらたどり着いたその糸口をお話いただきました。
- ◆ また、第二部として、当街道交流会会長の白鳥良一氏に「メキシコのピラミッドを訪ねて」と題して、スライド中心に報告をいただきました。他に、岩沼市の古代東山道について、緊急の話題提供がありました。
- ◆ 今号は概報とし、詳細は次号以降で報告する予定です。

◆ 1 講演「アイヌ語地名と和語地名の境界を探る」

- 仙台から県北部にかけて、集落跡の遺跡発掘調査で、関東系土器が出土している。一方、後北 C2-D 式や北大式など続縄文文化の足跡を知らせるものも多く見つかっているそうです。
- これは 3 世紀頃、北海道の続縄文文化の南下の始まりと、同じ頃に北上してきた古墳文化と交差・錯綜していたことを伝えており、確実にアイヌ語と同じ言葉を使っていた人々と和語を話す人々との文化や暮らしの共存や接点があったことを伝えているといえるのではないかと思います。
- 太宰さんは、ずっと在地の人やエミシ社会の中での地名と、征服され律令化されていった接点である地、その太い境界線はどこだったのかと探し続けていましたが、その糸口がやっと見つかったように思えるとのこと。
- その典型的として、栗原市の一迫と築館八沢にある「要害」(ようがい：『日本書紀』では「ヌミ」とルビ、「水際や沼の岸、川辺」を意味)と「道満沢・道満」(どうまん：アイヌ語で「トマム(tomam)」)、「沼や湿地」を意味)は、ほぼ同じ意味になる。などが紹介されました。



◆ 報告「メキシコのピラミッドを訪ねて」

- メキシコシティの北東約 50km にあり、テオティワカン文明(紀元前 2～6 世紀まで繁栄)の中心となった巨大な宗教都市遺跡を 9 月に訪ねたそうです。



- 主な写真を紹介します。岩沼市の古代東山道については、会長の年頭挨拶に詳しいです。

- ◆ 「越後米沢街道」は、山形県置賜地方から新潟県下越地方に至る約 70km の旧街道で、米沢藩には越後地方との交易などで大変に重要な街道でした。約 500 年前に伊達 14 代植宗により、大里峠が開かれたのが始まりとされます。
- ◆ 新潟県関川村、山形県小国町、飯豊町、川西町間には、13 の峠があることから「十三峠」と呼ばれています。この関係団体等で平成 20 年に「十三峠交流会」が設立され、街道の自然・歴史・文化などを掘り起こしながら、地域活性化を目指して活動しています。今大会では、運営の中心になりました。(詳細は、報告書が完成したら送付します。)

● 交流会 第一部

(平成 28 年 11 月 4 日／山形県・川西町フレンドリープラザほか)

【オープニング】「越後瞽女唄」(萱森直子氏)



➤ 盲目の旅芸人の唄う「瞽女唄(ごぜうた)」の伝統が途絶えずに引継がれたのは越後だけです。山形は瞽女をあたかく遇する土地だったため、この越後米沢街道にも多くの瞽女さんが足跡を残しました。萱森氏は、唯一の伝承者です。



【参考】位置図

【基調鼎談】「イザベラ・バードも見た十三峠・山形の魅力を語る」



➤ イザベラ・バードの「日本奥地紀行」の十三峠の部分には、ここで書ききれなかった魅力ある地域の温かさが沢山あると思われます。バードの足跡をふり振り返りながら、十三峠や山形を見つめ直して、その魅力を探りました。
[出演者]あべ美佳氏(作家、脚本家)/佐藤洋詩恵氏(上山温泉・古窯女将)/渋谷光夫氏(アルカディア街道 IB 倶楽部会長)

【第 1 分科会】「十三峠の歴史から山形南部・新潟交流の明日を探る」



宮原氏・原氏・横山氏・廣瀬氏

- 近世の越後米沢街道・十三峠や、明治以降における道路かいさが果たしてきた役割を歴史的(縦軸の流れ)・空間的(横軸/面的広がり)視点から探り、新たな山形南部・新潟間交流の明日を探りました。

【第 2 分科会】「歴史の道・十三峠の保全と活用」



銚氏・米野氏・岡村氏・高橋氏・片倉氏

- 十三峠関係団体の代表の方々に活動状況の紹介とともに、街道の保全などの課題、及び今後の連携した活動と活用方策について話し合っていました。

● 街道探訪会

(平成 28 年 11 月 4 日)



Aコース: 渡邊邸・鷹巣峠(関川村)

Bコース: 黒沢峠(小国町)

Cコース: 宇津峠(飯豊町)



Dコース: 諏訪峠・小松街歩き(川西町)

● パネル展



● 街道談義



《編集後記》

- 明けましておめでとうございます。正月も残りがなくなっていました。(*_*) 今号は、新年号として、会長に年頭のご挨拶をお願い致しました。

- 2 頁からは、昨年秋の 2 つの街道大会と勉強会の概要の報告です。詳細は、報告書が出来たらホームページへの掲載やメール等で送付をしたいと思いますので、お待ち下さい。(ニュース編集部 やま)